

# あなたの声をお寄せください

ご意見、ご感想、ご要望など「あなたの声」をお寄せください。皆様から頂戴したご

## 重正よ、支持者へもつと顔を出せ！

私は鈴木重正を応援している一人ですが、仲間と世間話をしていれば次のような話になることがあります。

◆ 『今の三沢市の政治状況はどのようになっていくのか、今後はどのようになるか、今、重正は何を考えているのか等たまたま本人から話を聞きたいな』  
市内外には代々鈴木家の応援団の方々沢山おり、それぞれの方法で支援しているものと思われませんが、心配をしている人たちもいます。

◆ その意味では、現在四半期ごとに発行して

意見等は、ご本人様のご了承を得た上で、内容に応じてご紹介させていただきます。

いる鈴木しげまさ通信はとても良いと思いがすが、直接話をするのも今後の活動に大いに役に立つと思います。

◆ 選挙は政策・人物本位で選ばれるべきですが、また地方では地縁・血縁・近所の結びつきが強く影響するといわれており、国政においても足で稼ぐとぶ板選挙が力を発揮したとの例もあるようです。

◆ いずれにしても地域の状況を自分の目と耳で把握することは重要だと思いますので、ぜひ遊びに来て下さい。(三沢市 しげまさ応援隊)

## 後進に道を

三沢市内には多くの団体があり、選ばれてリーダーを務め大変な苦勞をしながらそれぞれの組織の目的を達成するためにがんばっていると思います。

◆ しかし、いくら優れた人でも同じポストに長い間居続けられれば、歴史が証明するように、活動のマンネリや腐敗疲勞が蓄積され本来の目的を達成出来ずに、組織の維持や存続が活動の目的のようになり一部の人たちの組織になつていくように思われます。

◆ これらの多くの組織には、公金が投入されておりますので、当然一部の人たちのためのものではなく、関係する多くの人たちのためになる活動が大事です。組織の新陳代謝が進まないのは、後継者がいない、若い人では無理だ、任せられない等理由は沢山あると思わ

れますが、よく言われるように後継者を育てるのも現役の役目です。大変な時代になつてきましたので、思い切つて後進に道を譲り盛りたてていくことが大事だと思います。

◆ (三沢市 WT) 帰省した友が私に、「帰るたびに道路ができ、真新しい建物ができていく。三沢も時代に合せて変化していることを感じる」と開口一番に話した。

◆ 特に最近では、青森県内で旧三沢を除くと、こんなに変化する町はないと思う。ちょっと前は、国などの支援を受けて郊外型が県内外でも流行した時もあるが、今は人口の減少時代で、なかなかそうはいかなくなつた。

◆ 「ただ何かが足りないいなあ。せつかく道路や建物があつても、どうも活気がない。もう少しつくる前に、活性化につなげるビジョ

ンをもって取り組むことが必要だなあ。」の一言であった。

◆ これからの三沢の発展や活気ある街づくりを目指すには、新しい考えを持つ人が必要だ！一人ひとりが真剣に三沢の将来を考える必要があると、言い残して帰っていった気がする。彼からそんな事を言われたが、大丈夫！しっかりとやる人がいるよ。(三沢市 北浜の人)

## 期待できる鈴木さん

平成29年6月27日にぎざん三沢で開催された『星野仙一野球殿堂入りを祝う会』に参加した。高橋さんの思い出を語った講演、太田さんから野球に対する姿勢、また星野さんからこれからの野球界に触れながらの挨拶。そして懇親会。

◆ 乾杯の音頭は鈴木さんである。壇上に登った鈴木さんは、星野仙一さんの功績に触れ、三沢出身の太田幸司さんの業績を上げ、高橋

尚成さんの巨人軍(投手)、海外での活躍を紹介して、盛り上がったところで『みんな乾杯をした』誠に見事であった。挨拶はTPOもキチンとわきまを配慮し、実に時宜を得たものだった。すぐ隣の席から、『鈴木さん挨拶がうまくなつた』の声がした。

◆ このような場所に顔を出し、『いいものはいい、ダメなものはない。』と言えよう。いろいろな人からのサインを受取り、心の肥やしにしてほしいと思う。もう直ぐ、星野さん達のように貴方も政治のマウンドに立つ日が来ると思うからです。(三沢市 KY)

あなたの声をお寄せください  
FAX : 0176-58-7355  
ホームページ  
http://www.suzukishigemasa.com/  
(討議資料)



# 鈴木しげまさ通信

## 命の授業

昨年4月、知人を介してご縁をいただき「命の授業」の講演家 腰塚勇人先生とお会いする機会を得た。初め

て先生の話を聴いて涙がこぼれ、その実体験に基づいた言葉の一つ一つが私の胸に突き刺さってきた。

## 未来への挑戦 そして責任



腰塚先生は、元中学校の体育教師で、スキーでの事故で首の骨を折り全身マヒの体になつたが、懸命のリハビリにより絶望の淵から奇跡の回復を成し遂げ社会復帰できるまでになり、事故をきっかけに人生も人生観も大きく変化。2010年3月に教職を辞し、現在は「命の授業」の講演を通して「命の大切さ」や「命の喜ぶ生き方」を伝えており、7年間で全国各地で1300回を超える講演をされている。

◆ 初めての出会い以来小学校、中学校、高等専門学校などでこれまでに8回講演会を拝聴しているが、それぞれ対象者に分かりやすく「命の大切さ」や「命の喜ぶ生き方」を伝える真実の言葉は、聴く者の心にまっすぐに届いていく。それは

◆ 腰塚先生の強い想いがあるからであろう。

◆ (命の授業への想い) 『人は人によって支えられ、生かされている。誰もが一人じゃない。「助けて」って言うっていい。命があるのは当たり前じゃない。当たり前の前じゃなく、当たり前の前の中に幸せはある。私はケガから復帰する中でそれを心から実感しました。

◆ 「命の授業」の講演を通して「命の大切さ」や「命の尊さ」を伝えたい。一人ひとりに「今ある幸せ」と「命の可能性」に気づいてほしい。いじめや自殺を減らしたい。そして、一人でも多くの人に「命の使い方」や「命の喜ぶ生き方」を考え、行動し、生きてほしい。

◆ 私の夢は、「命の授業」を日本全国一億二千万人に届けていくことです。この想いを胸に、私は一期一会の気持ちで、この志事に本気で取り組んでいます。(腰塚勇人公式ホームページより)』

◆ 少子・高齢化の進展やインターネット・携帯電話等情報の氾濫を始めたとして子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で、よく「最近の子どもは」という言葉が聞かれる。環境をつくっているのは大人であつて、裏返せば「最近の大人は」「最近の親は」ということだと思ふ。

◆ 私も命をつなぐ、三沢のまちをつないでいくために強い想いを持っています！

## 腰塚先生が伝える「5つの誓い」

『口』は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。

『耳』は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。

『目』は、人のよいところを見るために使おう。

『手足』は、人を助けるために使おう。

『心』は、人の痛みがわかるために使おう。

# しげまさ日記

## スポーツで元気に！

### みさわの野球

三沢市野球協会（堤喜一郎会長）が平成29年6月27日に開催した元メジャーリーガーの高橋尚成さんを講師に招いての講演会を拝聴しました。高橋さんは、投手として読売ジャイアンツに入団・活躍、その後渡米し、ニューヨーク・メッツやロサンゼルス・エンゼルスなどで活躍されました。

講演会では、高橋さんが自身の野球人生を振り返りながら、夢・目標を持って、野球だけでなくどんなことでもいいので一番を目指すと大切だと伝えていました。



堤喜一郎三沢市議が星野さんと明治大学野球部の同期という縁で、市内の野球関係者らから実行委員会を立ち上げて祝う会を実現させました。

夢・目標を持って、その実現に向かって困難に立ち向かい努力を重ねていくことは子どもだけではなく大人にとっても大切なことですね。

同日夜は、きざん三沢で行われた「星野仙一さんの野球殿堂入り」の野球殿堂入りクリンになったいくことを願っています！

まちが少しずつきれいになっていくだけでなく、普段車で通る道も歩いてみることで、いつもとは違う目線でいろいろなものが見えてもきます。

## 地域と共に！

### まちをきれいに

8月5日、9月9日、「三沢の未来を創るわこうどの会」（附田久志会長）の清掃活動に参加しました。

この清掃活動は、自分たちが生まれ育った三沢のまちを少しでもきれいにしたいとの思いから、毎月1回定期的に実施されている社会奉仕活動で、今回が5・6回目となります。

現在、主に市中心街で行われていますが、ゴミは特にタバコの吸



三沢のまちが、ハードもソフトもきれいに

い般が多いようです。道路・歩道は灰皿でもゴミ箱でもありません。子どもたちに模範を示す大人のモラルが問われます。

お時間がある方は、是非一度参加してみたいかがでしょうか。

だそうです。

スペインルゲストとして地元のヒーロー元プロ野球選手の太田幸司さんと講演会で来沢していた高橋尚成さんも駆けつけて、お祝いの場に華を添えています。

元野球少年の私にとって「最幸」の一日となりました。大変貴重な機会をつくってくださった皆さん、ありがとうございました！

### バックス奨学基金

7月30日、三沢ロータリークラブが開催した「第52回バックス奨学基金カンパゴルフ大会」に参加しました。

バックス奨学基金は、1961年、米空軍三沢基地司令官のバックス大佐が退任する際に各方面から送られた餞

“どんな鳥だって 想像力より高く飛ぶことはできないだろう”

8月6日曜日、現実と虚構、劇場化した三沢市内。

テラヤマ・ワールドが主催し、寺山修司記念館20周年特別講演、幻想市街劇「田園に死す」三沢編が行われました。

大きく分けて①テラヤマロード（商店街）周辺、②寺山修司が少年時代を過ごした三沢駅周辺、③寺山修司記念館周辺の三つのエリアで同時多発的に繰り広げられた市街劇。市内外から寺山修司の魅

市街劇を鑑賞して寺山作品の一端を垣間見たにすぎませんが、そのパフォーマン스에驚きつつも、寺山修司の巧みな言葉（短歌、詩、台詞など）から、虚と実、明と暗、生と死、人間が持つ欲情、怒り、喜び、哀しみなど多くのものを感じる事ができました。

一体どのような生き方をすればあのような言葉が生まれてをかけること。



寺山修司の「田園に死す」三沢編の再演。

独特で個性的ですが「寺山修司」には人を惹きつける魅力があって、今回の市街劇は三沢市にとって観光（集客）という観点からも意義深いものがあると思います。

最近テラヤマロードをオープンさせるなど新たな取り組みを進めている三沢市ですが、しっかりとした方向性を示して、官民一体となった今後の展開に期待しています。

### ユニバーサルマナー

8月7日、「ユニバーサルマナー検定 in

三沢」を受講して、ユニバーサルマナー検定3級の認定証をいただきました。以下、検定で学んだ主な内容です。

自分とは違う誰かのことを思いやり、理解して、高齢者や障害者などさまざまな人の目線と考え、行動する。多様な人と向き合っていく、ふれあっていく、その姿勢が現代に求められているユニバーサルマナーです。

人口の内、4人に1人が高齢者、16人に1人が障害者で、そんな現代だからこそ、高齢者や障害者への適切なサポートや「ユニバー

ション方法を、マナーとして身につけてほしい。ユニバーサルマナー検定は、そんな思いから生まれました。

ハード（環境・設備）とソフト（サービス）の両面が必要ですが、ハードを整備するには時間やお金がかかる。私たちに求められることは、「ハードは変えられなくても、ハードは今から変えられる！」ということ。

「障害は人ではなく、環境にある」。モノや環境が生活の障害になっている人が障害者。



私たちに求められる姿勢は、無関心や過剰ではなく、さりげない配慮。考えていることや必要としていることはそれぞれ違い、相手の立場になって考える習慣を。

まずは声をかけること。「できる？」「できない？」を聞かずに、「お手伝いできることはありますか？」と声をかけます。

別を「次世代を担う子どもたちの教育に役立てて欲しい」と願い三沢ロータリークラブに託したことが始まりだそうです。

そして、奨学金の増資と充実を図るために1965年からゴルフ大会が開催され、今回で52回を数えるに至っています。

バックス奨学金は、三沢市内に居住する向学心に燃える生徒に対して高校3年間支給（現在月額2万円）され将来において返還を

求めない奨学金で、現在、4名の生徒が活用し、勉学に励んでいるそうです。

◆ 昨今、経済的事情による教育格差であったり、奨学金の問題がクローズアップされていますが、50年以上の長きにわたって給付型の奨学金制度を続けてこられている三沢ロータリークラブの皆様には心から敬意を表します。

私も微力ではありますが子どもたちの教育のために力を尽くしていきます！



### 「講演会のお知らせ」

日時：平成29年10月17日（火）  
18：00～  
場所：きざん三沢  
講師：平田英俊 氏  
元航空自衛隊第3航空団司令  
兼三沢基地司令

講演テーマ：我が国の防衛と三沢基地（仮称）

入場料：無料  
主催：三沢の未来を創るわこうどの会  
お申し込み・お問い合わせは、  
きざん三沢54-3111まで。

検定を受講して、これまで知らなかったことや考えに至らなかったことがたくさんあることに気づくことができました。自分の当たり前は、相手の当たり前ではないということ。相手の立場になって考え・行動していきま

り前は、相手の当たり前ではないということ。相手の立場になって考え・行動していきま